

## マリは今どうなっているのか、再び考える

—モバイルの普及で地方の日常生活に焦点が絞れる

小島通雅

本年3月末の軍のクーデター、その混乱に乗じた北部の独立宣言。しかし、周辺の西アフリカ諸国がこれによる新政権も北部の独立も認めず、経済的制裁等に動く。クーデター派を徐々に排除して従来マリ憲法による暫定政権、これを形の上では整え、次に国民投票による真の民主的政権への道を開く、この方向で進んできた。一方、北に対しては、独立宣言したトアレグ族のグループに代って実効支配しているイスラム原理主義グループの南部への勢力拡大を恐れ、マリ政府だけでなく自分達周辺諸国が国連の承認・支援を得て北部制圧に軍隊を送ろうとしている。

こうした国家レベルでの動きに関する情報以外にも、新聞やテレビ、それにインターネット等を通じて様々な情報が我々の所に届く。しかしそうした中からマリに住む一般市民の日常生活、その姿は見えてこない。—都市や、町、村のマーケット（市）は開かれているの？穀類その他食糧品の値段は？子供達の学校は普通にやっているの？バスなどの交通機関は動いているの？人々の南部と北の支配地間の移動は？—こういう具体的なことを聞いてはじめて、マリの国内がどうなっているのか想像がつかぬのだと思う。

それには幸いなことに長年の活動で出来たマリの様々な所に居る友人達とモバイル（携帯電話）で直に話ができる。直接の友人だけでなく日本人と結婚して東京に住むマリ人も何人かいる。そうした人達の故郷の親戚、友人からの情報も得られる。一般市民の生活に関する情報なら、モバイルすれば最新のものが幾らでも聞くことが出来る訳だ。サヘルの森の現地活動について長期的な見通しというなら国家レベルの情報が重要だろう。しかし短期的に現地で何がどう出来るかという視点から見れば、サヘルの森の現在の方式でいく限り、その地域の人々の日常生活に関する情報をしっかり集めれば大丈夫なような気がする。

現在の所、そうした個人的なつながり、友人関係からの情報によれば、思ったより治安も良く、従来通りの生活が続いているようだ。勿論、爆破テロ、誘拐等の危険な出来事は何処でも起こり得る。しかし、遠近で起こった出来事はマスコミの国際ニュースで報じられるより、数段早く詳しく住民間のモバイル網で耳に入って来る。彼等村人たちは我々日本人の事に充分気を配ってくれているし、心配もしてくれる。ちなみに、まだモバイルがなかった昔の紛争当時の話だが、活動地近辺におかしな連中を見かけたから「当分日本人は来ない方が良く」、また、トンブクトゥへ引き上げラクダでファギビンヌを訪れた時、途中で「ここから先へは行くな、会いたい連中は自分が行ってここに連れてくる」、或いは最近あった話だが、村での活動中に夕方遅くなり、「最近、帰りの峠道で何回か強盗が出たから早く帰れ」という。



## 混乱のマリで続くサヘルの森の活動 ~マリ人スタッフの奮闘~

### 月2回のファナ訪問

混乱の続くマリですが、南の地域の人々の生活はこれまでと大きく変わることなく続いています。サヘルの森も今年5月から安全が最も確保できるファナ地域での活動を再開し継続しています。

その中心的な役割を担っているのが、マリ人スタッフのトラオレさんとコニバさんです。雨期の間は月2回、計6日~10日間ほどファナに滞在して、村々を回って苗木を配り、これまでに配布した木々の生育状況の確認をしました。

10月以降乾期に入ると配布は一休みし、小学校林の生育状況の確認や保護柵などの手直し、試験地の管理を行っています。



村人に苗木を配るトラオレさん

### 地域苗畑の実情

地域苗畑はそれぞれの地域で篤農家が苗木を販売するために育成している苗畑で、サヘルの森が配布する苗木もこれらの苗畑から仕入れています。

トラオレさんの報告によると、マリのクーデター以降、多くの地域苗畑では生産の規模を縮小しています。普段から政府機関などによる苗木購入は不確実なために、今回の国内の混乱によりさらに販売量が落ち込むと予想しているからです。

とはいっても全ての苗畑がそうではなく、

今年も変わらず苗木を用意している苗畑もあります。また、植林を進めようとしているマルカコンゴ（ファナの西35km）の市長がファナ3苗畑のセイドゥ氏から多くの苗木を仕入れたり、個人の購入もわずかながら続いていたようです。



ファナ3苗畑のセイドゥ氏

### 苗畑のネットワーク広がる？

ズィズィフィス (*Ziziphus mauritiana*) という在来の果樹があります。この改良種の接ぎ木苗が地域苗畑で売られており、ピンポン玉くらいの大きさでリンゴの食感のする果実をつけるので大変人気があります。ある時、新しく見つけた地域苗畑・ジェニナ苗畑で、さら

に大玉で昔の小玉のリンゴほどの大きさの改良種を見つけました。

その話を別の地域苗畑のサコ氏に話し

たところ非常に興味を持ったらしく、この雨期にジェニナ苗畑のタファラ氏を訪れ、この改良種や接ぎ木についての技術交流をしたそうです。図らずも会がやろうとしていた相互交流が実現し、さらに苗畑のネッ



ズィズィフィスの大玉種



トワークが広がって地域の林づくりに繋がっていけばと思います。



マンゴの接ぎ木苗を出荷するタファラ氏

### 果実が実り始めた！

女性に対しては、葉が食用になるバオバブやモリングア、染料に使えるアルヘンナの他に、スンスンやグアバなどの果樹も配布しています。いろいろな村で苗木の生育状況を確認していると、数年前に菜園などに植えられた果樹が大きく育ち、実をつけるまでになっています。

これまでは1年で実のなるパパイヤなどでは結実を確認していましたが、今年スンスンなど結実までに時間のかかる果樹の実も確認できるようになりました。



実をつけ始めたスンスン

大事に育てた木から実が採れるようになり、その喜びが今後の林づくりの意欲の源となればと思っています。

### 除草はやはり鋤で…

毎年雨期になるとファナの荒廃地試験植林地には草が腰の高さにまで生長し、その

草が乾期に乾燥して野火に遭うと、植えた木に大きな被害をもたらしていました。ここ数年は雨期の適当な時期に草刈機で草刈りをして、試験地の管理をしていました。

今年トラオレさん達にこの草刈りを任せましたが、日本から持っていった草刈り機を使わず、伝統的な鋤で除草をしてくれました。手伝ってくれた村人の人数分の草刈り機がなかったためもありますが、慣れ親しんだ鋤の方がやり易かったのでしょう。



除草の手伝いをしてくれた村人・ヌウ氏

### 来年の活動は？

これまでのところ、トラオレさんを中心に予定通り活動は進められており、現地からの報告も写真と共に定期的に送られてきて、活動状況の把握も問題なく出来ています。とはいえ、これまでの日本人を現場に送って共に活動するというサヘルの森の活動方針からすると、お金だけで現地の人たちと繋がる弊害を心配しています。

現場に行けずとも、首都のバマコだけでも日本人を派遣出来るようになれば様々な問題は改善できます。しかしこのままマリに日本人が送れない状態が続くようであれば、隣国でのマリ人スタッフとの接触や植林技術の研修等の活動形態をとってマリの活動を継続することも検討していきます。

記事の写真は全てトラオレさんが撮ったものです。

## 国内活動で振り返るサヘルの森の半年

マリの現場に日本人スタッフが派遣できない中、今年は国内活動に力を入れ、イベントや多くの講演会などに参加しました。今回は下半期の国内活動をまとめて報告します。

6/3

### 西アフリカ砂漠化対処セミナー コメンテーターとして参加

(神奈川県横浜市)

6月3日、JICA 横浜会議室において「サヘル地域の砂漠化対処と日本の貢献」という題目で開催されました。主催は(財)地球・人間環境フォーラムで、小さな会議室は50名を越える参加者でいっぱいでした。

世界でも最も貧困な国々が存在する西アフリカでは砂漠化の進行により、人々の生活基盤が危機にさらされていますが、それらに対して、技術移転、風食対策、水食対策、取り組み方、緑化資材等についてなどの基調講演が6名の講演者によって行なわれました。

そのあと、補足するような形で、西アフリカで活動しているNGOなどの活動、コメントが求められ、短時間ですが、サヘルの森の活動を紹介しました。

大きな議題であり、時間が少なくてもったいない感じでした。(坂場光雄)

6/23

### 木の文化と環境フォーラム講演会 (長野県松本市)

6月23日に松本市の長野県工業技術総合センターの大会議室で開催されました。主催は木の文化の環境フォーラムで、総会時の講演会として、「木」を通して、世界を、環境を、地域を、もう一度、考えていこうという取り組みでした。木工関係と思われる人々を中心に20名余の参加者がありました。

「家具・木工クラフトの活動」や「イタリア人の生活における木のつきあい方」という講演の間に「サヘル地域の自然と砂漠化防止」という題目で、現地活動と人々がさまざまに木を利用することを話しました。

講演後の懇親会で、マリからも家具が日本にきているという話があり、まだまだ知らないことがたくさんあると思いました。(坂場光雄)

7/2

### KTC 中央高等学院特別授業

(東京都町田市)

通信制の高校生をサポートする KTC 中央高等学院で特別授業をしてきました。

特別授業は、地域のいろいろな分野で活躍する人を招いて、それぞれの仕事や活動などを話してもらい、生徒に知ってもらう授業です。私はマリでの活動をスライドで説明した後、バオバブの苗木作りを体験してもらいました。

活動の話しにはそれでの合間にバオバブの実などに触れながら興味を持ってもらいましたが、やはり実際に苗木作りを始めると目の色が変わりました。中には親がガーデニングをしていて植物に興味があるといった生徒もおり、また生育状況をブログにアップしようかなという生徒もいました。生長したら写メで送ってねと言っておいたので、そのうち報告が届くのを楽しみにしています。(榎本肇)

9/12

### 「当て塾」講演会

(東京都港区)

9月に小島さんと「当て塾」という研究会で講演してきました。「当て塾」は東京工業大学名誉教授・鈴木忠義先生が塾長をなさっている研究会で、「観光原論研究」の講座を中心として多分野の講師を招いて勉強会を行っているそうです。この研究会の方がサヘルの森の協力者であったため、この講演会が実現しました。

「現場主義×流れのプランニング」というテーマで現場で感じたマリと日本のギャップ、そこから導かれた活動の進め方の変化などを話しました。日頃から計画・立案に関わっている方々が多いため、サヘルの森のやり方に非常に興味を持っていただきました。

また、持参したバオバブの展示品にも「名前は知っていたが実物は見たことがなかった」と興味を持っていただきました。(榎本肇)

10/17

## 「日の出塾」講演会

(東京都大田区)

9月の「当て塾」講演会の際、参加者の一人から講演依頼があり、その方が主催されている「日の出塾」という勉強会でサヘル森の活動について講演させていただきました。

「日の出塾」は大田区六郷の会社経営者を中心に次世代の人材を育成する目的で幅広い分野から講師を招き勉強会をしています。この地区には世界大会で重用されている砲丸投げの鉄球を作っている工場など世界に誇る技術を武器にした町工場が多くあります。この塾にも自動車などの計器や大きな鉄塊の加工など技術の粋を集めた製品を生み出している会社の経営者の方々が参加されていました。

近年は不景気で工場も徐々に減少し、住宅が増えてきており、リーマンショックに代表される世界的な経済危機や尖閣諸島問題に代表される国際情勢にも大きく左右されているといえます。良いものを作っても、品質が悪いが安い海外製品に押されてしまうという話に、マリで日本製のバイクや電化製品が安い中国製品に駆逐されてしまった現状を思い出しました。

普段なかなか接する機会のない方々と接し、私自身も新鮮な講演でした。(榎本肇)

10/20

## 日本沙漠学会秋季シンポジウム

(東京都新宿区市ヶ谷)

10月20日に日本沙漠学会主催の秋季シンポジウムが開催され、「砂漠緑化 NGO 活動の四半世紀—回顧と将来への展望—」をテーマに4団体の講演が行われました。サヘル森は「マリ共和国における砂漠化防止活動の25年」として、組織設立の発端から2012年のクーデターまでの経過や活動、現地で使っているさまざまな適正技術について話しました。

沙漠学会は、緑化の専門家ばかりでなく、さまざまな分野の人々が参加しており、緑化ばかりでなく、広範な話題が取り上げられました。特に草炭緑化研究会が参加していたため、サヘル地域のファギビンヌ湖の地中火が話題に上がりました。乾いたファギビンヌ湖の地中の有機質が燃えて地中火が広がり、多くの樹木が枯れたという話から、有機物をサヘル地域の緑化につかえるのではないかとの話が出ました。地中火の問題については、数年前のサヘル森の総会で現地調査を行なう予定でしたが、治安が悪くなり実現していません。

他の3つの講演も興味深く、特に岡山大学の吉川賢先生の研究の中で、移動砂丘は30%を被覆すれば移動が止まるという話に、今後の緑化にも活用していけると思いました。(坂場光雄)

7/28

## サヘル森設立二十五周年記念報告会

「サヘル森の25年の林づくりに関わったマリの人たち」

(神奈川県横浜市)

サヘル森設立25周年を記念して、横浜市にあるかながわ県民センターで報告会を行いました。題して「サヘル森の25年の林づくりに関わったマリの人たち」。

今年3月に発行した記念誌『我々の流儀』に倣い、25年間の活動を5つに分けて、それぞれの時期に関わったマリの人たちを紹介しながら活動の変遷をお話ししました。

## 1) ファギビンヌでの始まり

(1987~1994、1996~2001年)

## 2) モプチでの村落開発 (1992~2000年)

## 3) 1村10本100カ村運動 (1997~2002年)

## 4) 現地NGOとのコラボ (2003~2006年)

## 5) より広域での活動へ (2007年~現在)

報告の中で、それぞれの時代に多くのマリの人たちが関わってくれていたのだと改めて気付かされ、またその関係が25年間の活動を支え、これからの活動の財産になっていると感じました。(榎本肇)



8/25.26

## サヘルキャンプ 「白馬村高原の自然とふれあう」 (長野県白馬村)

8月25～26日に長野県白馬村で行ないました。東京の八王子を8時30分出発、13時に白馬駅に到着。ここで直行組と合流。合計7名でした。会員の中村さん宅を訪問。それから、姫川源流の湿原をご案内いただきました。湿原には木道があり、フシグロセンノウ、オタカラコウ、サワギキョウ、ヤマゼリなどの花が見られました。遊水地にはバイカモが開花していました。



姫川源流の散策

散策後、白馬村の温泉へ。広い駐車場と共同浴場があり、ゆっくりと湯につかり、疲れを取りました。食材を買って中村さん宅へ帰り、夕食はカレー。おいしいつまみとお話で、お酒も進みました。

次の日はニンニクのきいたトーストで朝食。そして、8時には白馬五竜高山植物園へ出発。

ロープウェーとリフトを乗り継ぎ、徒歩20分、地蔵の頭(1,676m)まで登り、雄大な北アルプスの展望を満喫。気温はロープウェー降り場のアルプス平(1,515m)で20℃。少し雲がかかっていましたが、天気にも恵まれさわやかでした。リフトの下はお花畑になっており、赤紫のアカバナシモツケ、カライトソウ、タカネバラ、青紫のタテヤマウツボグサ、白いコウメバチソウ、ノリウツギ、黄色のオトギリソウなど色とりどりの花が見られました。お花畑をゆっくりと下りました。コマクサの花もありました。



白馬五竜高山植物園遊歩道

再び、ロープウェーで下界に戻り、11時に散会、寄り道しながら帰途につきました。途中、渋滞もありましたが、17時30分すぎに八王子到着。

中村さんにはたいへんお世話になりました。ありがとうございました。(坂場光雄)

10/6.7

## グローバルフェスタ JAPAN2012 (東京都日比谷公園)

毎年10月6日の国際協力の日に合わせて開催されるグローバルフェスタ JAPANに、今年も参加しました。海外で活動しているNGO・NPOはもとより、各国の政府機関やJICAなど、多くの団体が出展する大きなイベントということで、国際協力やボランティア活動などに興味を持つ若い人々が集まるのが特徴です。

一昨年、昨年にも参加しましたが、今年は、サヘル25周年ということで、「多くの人にサヘルの森を理解していただく」ことに力を入れたの出展となりました。訪れた皆さんにゆっくりしていただけるように、ブースの半分以上を写真などの展示と、実演コーナーに割り当

てました。新作の模型を使い、掘っても掘っても崩れてくる砂に、どの様にして植林のための穴を掘るかを実演しました。私自身、今まで話には聞いていましたが、実際に見るのは初めてで、小島さんの説明に思わずうなずいてしまいました。



当初は時間を決めての実演予定が、実際には見たい人がいれば「じゃあ、やろうか…」という感じになってしまいましたが、これもまたアフリカの(?)でよかったのでは、と感じました。

実演のほかにも、バオブの実、苗、バオブを利用した道具などに直接触れてもらい、小さなお客様たちにも楽しんでいただけたと思います。担当の小島さん、坂場さん、榎本さんは大忙しでしたが…。



日比谷公園は都心ということもあり、会員の方々をはじめ、学生さん、親子連れなど様々な人たちが来てくださいました。特に、学生さんたちが熱心に話を聞いてくれたのが印象に残ります。グローバルフェスタ事務局によると、来場者は約10万人ということです。

新たな支援につながってくれればと思います。(宮代裕子)

10/28

### みなこいワールドフェスタ

国際広場 (長野県駒ヶ根市)

10月28日に開催された、「みなこいワールドフェスタ」メインイベント「国際ひろば」に参加しました。10回目の参加となる今年は、残念ながらすっきりとしない天気、肌寒い気温となってしまう、来場者は少なかったものの、テントには多くの方が訪れました。スタンプラリーの対象店舗だったこともあり、子供の来訪がとて多く、毎年人気の坂場代表のどんぐり人形作りコーナーは今年も大人気でした。体験コーナーでは、小島さんが砂漠での植林の説明を丁寧に行い、活動に深く興味を持った人に満足していただけたと思います。

残念ながら、マリへの協力隊員派遣はしばらくなくなりましたが、本来ならマリへ派遣されるはずだった隊員とも会うことができました。



国際協力のイベントは多いですが、このイベントは地域に密着したイベントであり、JICA ボランティア(訓練中の派遣候補者)と直接一緒に活動できるという他のイベントとは違った楽しみがあり、様々な試みができます。皆さま、来年ぜひ、紅葉狩りがてらご参加ください。(榎本雅子)

11/3

### ジャパンバードフェスティバル2012

(千葉県我孫子市)

11月3日(土)、4日(日)に千葉県我孫子市の手賀沼湖畔でジャパンバードフェスティバルが開催され、千葉県支部も出展しました。早いもので今年で9年目の参加になりました。幸い天候にも恵まれ、大勢の市民や野鳥愛好家たちでにぎわいました。

サヘルの森は、鳥をモチーフにした泥染め布(コロゴペイント)や野鳥の巣を展示して来場者に鳥の巣当てクイズやアフリカのお話をしました。中でもバオブの実とハタオリドリ(オリーブ)の巣の展示は大好評で、「実物は初めて見た」とか「バオブの苗木を売ってくれないか」とか「人間が作るより器用な巣だ」とか・・・興味しんしんに眺める方が多く人だかりができました。どちらも現地スタッフがマリから持って帰って来たものです。重くてかさばるのを苦労して運んでもらったかがありました。(高津佳史)



## イベント案内

### ■定例活動

一年の締めくくりの定例活動です。瀬谷区市民の森で自然観察を行います。観察の後は交流会(忘年会)(参加費:実費)を行いますので、是非ご参加ください。

【日時】2012年12月15日(土)9:30~14:30

【場所】横浜市瀬谷区市民の森

【集合】相鉄線「瀬谷」駅改札口9:30

【申込先】サヘルの森(TEL:042-721-1601、  
E-mail:sahel-no-mori@jca.apc.org)まで

### ■まちカフェ!

町田市のNPO、市民団体が活動を発表するイベント「まちカフェ」が会場を市役所に移して装いも新たに来年開催されます。サヘルの森も活動紹介やグッズ販売を行いますので、お近くの方は是非お立ち寄りください。

【日時】2013年1月20日(日)10:00~17:00

【場所】町田市役所新庁舎1、2階

住所:東京都町田市森野2-2-22

【アクセス】小田急線町田駅から徒歩約8分  
JR横浜線町田駅から徒歩約11分

【URL】<http://machi-cafe.org/>

## サヘルアルバム



女の子のおぶっているものは何だと思いませんか?  
実は草の根を綺麗に洗って縛った人形なのです。  
どこの子供も遊びに関しては天才です。(榎本)

## お知らせ

### ■サヘル25周年記念誌&CD発売中!!

・「我々の流儀 現場主義×流れのプランニング」

全56ページ・B5サイズ 700円(送料込)

・「機関誌サヘル」総集編 CD-ROM

創刊号~89号(約750ページ)+写真100枚

PDF形式・Win/Mac対応 1,000円(送料込)

\*興味のある方へのプレゼントにどうぞ。

\*詳しくはHPをご覧ください。

### ■会費の納入にご協力ください

今回同封のカードに納入済み会費年度が記入してあります。ご確認ください。

まだ今年度の会費納入がお済みでない方は同封の振込用紙にて納入をお願いします。

## クリスマス募金のお願い

年末恒例のクリスマス募金へのご協力をお願いします。

今年のマリは混乱が続きましたが、来年はマリの全ての人たちに平和が訪れるようお祈りしたいと思います。

## 会員になって活動を支えてください

NPO法人『サヘルの森』はサハラ砂漠の南縁・サヘル地域において植林活動を行う市民団体です。会員には機関誌『サヘル』が届きます。お申し込みは、振替用紙に①住所②氏名③電話番号④送金内訳(会費、募金など)⑤領収書の要不要を明記の上、郵便振替で下記口座にお振込みください。

・一般会員 年5,000円

・維持会員 年20,000円

### 特定非営利活動法人 サヘルの森

住所:〒194-0013 東京都町田市原町田1-2-3

アーベイン平本403(株)エコプラン内

TEL:042-721-1601(留守電対応)

FAX:042-721-1704

郵便振替口座:00170-6-115054

HP:<<http://www.jca.apc.org/sahel-no-mori/>>

E-mail:sahel-no-mori@jca.apc.org

\*\*\*\*\*

機関誌『サヘル』No.91 2012年12月2日発行

発行人:坂場光雄 / 編集:榎本肇

\*\*\*\*\*